

# 令和7年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

## 【完全版】

文： 中島 洋己

（（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

令和7年度第39回東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選が令和8年1月24日に三島南高校他で開幕する。初日に1,2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント、週をまたいで3日目に舞台を香陵アリーナ（沼津市総合体育館）に移して決勝リーグ第2戦と順位決定戦、最終日に決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月14,15日に平成30年・愛知インターハイの会場にもなった愛知県一宮市・いちい信金アリーナ（一宮市総合体育館）で開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に県代表としてコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

ここで今回の県新人大会に関するトピックをいくつか紹介したい。

まず、今回も「7位決定戦」を行う。昨年のこの大会から導入され、今年度の県総体でも行われてこの勝敗が次大会の組み合わせに大きく影響することが証明された。あくまでも「新人戦」でありどのチームも公式戦の試合数をこなしたいと思惑があるのは当然で、ベスト8に入れば必ず3試合が付帯してくる。今大会でも目の前の勝負だけでなくインターハイのドローにも大きく影響を与えることになり、正確なシード順のやぐらを組むためにも7位決定戦を行うことは大歓迎である。昨年の静岡学園一基山戦、静岡東一静岡商業戦も期待に違わぬ好ゲームであった。

そして、県新人大会が沼津に帰ってきたことも取り上げたい。従来県新人の最終週は東部地区で開催されることが多く、富士宮市民体育館や昨年は御殿場市体育館で開催された。沼津では令和5年に惜しまれつつ閉館となった沼津市民体育館が長く「聖地」としての役割を務め、平成27年度まで県総体・県新人で使われ続け、特に最後の県大会開催となった平成27年度の県新人・女子では浜松開誠館を破った浜松学院（現浜松学院興誠）が見事初優勝を飾ったことはいまだに多くのファンの脳裏に残る。同時に翌シーズンから9年間に渡る浜松開誠館の県内連勝が始まった画期的な大会でもあった。今回10年ぶりに県新人が沼津に戻り、一昨年に竣工された香陵アリーナでの高校バスケ県大会のこけら落としとなる大会である。

最後に県新人特有のレギュレーションも確認しておきたい。県総体は全チームに地区予選の出場義務が課されているが、県新人ではウインターカップに出場したチームは地区予選免除・県高体連推薦枠として出場、各地区予選優勝チームと同格の扱いとなる。また上位4チームは県総体ではトーナメント制（3位決定戦実施）だが、県新人では育成段階での試合数確保の意味合いも含めて決勝リーグ制を行う。何度もこの展望でも触れ続けているが、リーグ戦になった場合は試合順・相性・日程そして得失点差などさまざまな要因が複雑に絡み合ってくる。昨年のこの大会女子では2試合終わった段階で全チームが1勝1敗で並び、最終的に2勝1敗2チーム・1勝2敗2チームで該当チームの直接対決の勝敗で順位が決まるという私の長いバスケ取材歴でも記憶にない幕切れとなった。また昨秋のウインター予選では男子のみ決勝リーグを行い、最終日を前にしても全国出場が確定せず全4チームに「全国出場」のチャンスが残り、最終試合終了まで常勝王者・藤枝明誠ですら全国を逃すリスクと隣り合わせで戦うというスリリングな展開となっ

た。

この大会から年末のウインターカップ 2025 に出場して勝利を挙げた藤枝明誠男子、そして全国屈指の強豪である正智深谷・東海大福岡と接戦を繰り広げた浜松学院興誠男子・浜松開誠館女子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。またこの時期毎年のことだが季節性インフルエンザの流行がすさまじく、静岡県でも「警報レベル」を大きく超える感染者数を記録し続け、一部では学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞く。さらに今年度は流行期が例年よりも早いのが特徴で、「タイプ(型)」が違えば複数回感染する可能性もあり大会開幕前後に「第二波」が来ることも十分考えられる。空気に色が付けることも出来ず対応にも限界はあるが、各自十分な感染症対策を講じて大会が無事終了ことを願う。また今大会でも県協会公式アプリで全試合の結果を速報する。昨年のこの大会で試行導入してから早 1 年、すでに県内全カテゴリーで活用されて現在では我々にとって欠くことのできない必需品となったこのアプリ、公式 HP とともに今後もさらなる活用と普及を皆様にもお願いしたい。

2 月 1 日には恒例の(一社)静岡県バスケットボール協会 U18 優秀選手表彰式が開催される。ウインターでも大活躍し今回男女通じて唯一の 3 年連続受賞となった野津洸創(藤枝明誠)、そのウインター開会式でチームの 10 年連続出場を称えられ代表として表彰台にも立ち、試合でも 19 得点の大活躍をした前川桃花(浜松開誠館)、正智深谷戦で 24 得点・10 リバウンド・14 アシストを記録し、ウインターで県勢日本人選手初のトリプルダブルを達成し、1 試合最多アシスト王にも輝いた西垣玲央(浜松学院興誠)、こちらも県内史上初、そしておそらく今後も出てこないであろう「高校生による成年種別での国スポ(国体)スタメン出場」を果たした稻葉叶(東海大静岡翔洋)など全国の檜舞台を踏んだ 3 年生トップアスリートを始め、今年度の県高校バスケを彩ったスーパースターが集う最後の機会となる。今年から U12, U15 に合わせて、U18 カテゴリーも優秀選手は「男女各 15 名(計 30 名)」となり、従来の各 12 名から 3 名ずつの増員となった。これは強化委員会が出来る限り多くの選手の努力と成果を称えたいというプレーヤーズファーストの意向が働いたことは容易に想像がつく。優秀選手たちによる多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでのさらなる活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長(株矢崎部品)を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書いていないが、この場を借りて協力していただいた皆様に心からお礼申し上げたい。そしてこの展望を読んで、少しでも多くの人が実際に会場に行って観戦したいと思ってくれればと思う。多分に主観的や情報不足の部分も入っているが執筆の趣旨をご理解いただきお許しいただければと思う。

## 【男子】

今大会も、ウインター県予選でも他チームの追随を許さず圧勝、本戦でも米子東(鳥取)相手に勝利を挙げ、さらにはU18日清食品ブロックリーグでも全勝優勝を飾り3月のトップリーグ入替戦の出場を決めた藤枝明誠が頭1つも2つも抜けているが、同じくウインターに出場して正智深谷(埼玉)と死闘を繰り広げた浜松学院興誠が藤枝明誠を猛追し、さらに沼津中央の猛攻を凌ぎ地区初優勝を飾った東部覇者・韋山、ウインター出場は逃したもの粘る城南静岡を振り切り6年ぶりに中部新人を制した静岡学園、そしてウインター予選最終試合で藤枝明誠相手に一歩も引けをとらない素晴らしい戦いを見せて今回の西部新人でも危なげない戦いで2年ぶりの優勝を飾った浜松開誠館の地区王者が、新チーム始動からまだ1ヶ月程度の上昇王者の隙を突いて東海新人出場はもちろん、一気に県制覇すべく鼻息荒く待ち構える展開が予想される。まさに5チームを中心とした優勝争い、地区予選上位チームも含めた東海新人出場争いにも注目が集まる。

左上のブロックは、県新人3連覇中の藤枝明誠の実力が群を抜くが、昨年大会5位・東部新人準優勝の沼津中央や昨年2大会で県4強入りを果たした静岡商業、そして県総体・ウインター予選ベスト8・西部新人3位の浜松西という公立・私立の強豪が集うブロックとなった。

**藤枝明誠**はウインター県予選で他を寄せ付けない圧倒的な強さで4連覇を果たし全国優勝を目指して出場したウインター本戦では強豪ひしめく激戦区に入り、初戦・米子東に圧勝したものの、続く2回戦で今大会男女通じて最多出場49回を誇る伝統校・土浦日大(茨城)に最後の最後で逆転を許し惜敗、今回も全国制覇の夢は叶わなかった。その悔しさは残された下級生にも十分伝わり、翌日から新チームを始動させ千葉遠征で士気を高めたと聞く。県内大会11連覇中、県内連勝も78まで伸ばし、昨年の東海新人・東海総体も制していることから「東海無敵」、今大会も県制覇はもちろん、東海新人連覇を果たして夏での全国制覇に向けて準備に余念はない。野津・篠原遼太・高松悠季・金子來樹・柴田陽など長年チームの「顔」として働いた主力は引退したが、経験値の高い選手を多く抱えて選手層の厚さは県下随一、全国でもトップレベルを誇る。

中心となるのが、ウインターでも非凡なセンスを見てくれた200cmアメーラマニユエルチネメソン。昨年から大きく成長した不動のインサイド、ゴール下の防波堤としてリバウンドを死守するだけでなく積極的なポストプレーにも磨きがかかり、土浦日大戦では2アシスト・4ステイブル・2ブロックショットに加え、10リバウンド・22得点、全国でも十分通用する留学生になったことを証明した。上腕筋の盛り上がり方も鍛え抜かれた証、積極的に1on1も挑み、ポストプレーやオフボールスクリーンそしてピック&ロールも冴えわたり、加えて機動力も身についてきてまさに「鬼に金棒」と言える。そして入学以来スーパールーキーとして数々の多彩な美技を見てくれた渡邊聖もいよいよ最上級生となった。ウインター予選は怪我で出場できなかったが本戦では見事復活、途中出場ではあったが全国の舞台に帰還、天下の宝刀である絶妙なアシストを連発し復調の兆しを見せた。高い得点力と勝負強さ、抜群のキャプテンシーをも兼ね備える全国屈指のクラッチシューター、今年の県協会優秀選手にも文句なしに選出され、内外問わずチャンスと見るや柔らかなタッチでシュートを決められるスコアラー、完全復活を果たした姿をいち早く見たいファンタジスタである。同じく怪我でウインター予選を欠場した205cmのセネガル人留学生・ンバイモドウも土浦日大戦で短時間ながら途中出場、エマニュエルのバックアップとして貴重な役割を果たした。短時間で試合にアジャスト出来る適応性と長いリーチを生かしたリバウンド、そして高確率で決めるフリースローは絶品。モドウの成長がエマニュエルにも波及効果を与えている現在、控えに甘んじるのではなくレギュラーを奪う気持ちで試合に臨んで欲し

い。189cm 小森蒼斗はリバウンドからのボールパッショングが素早く、チームのギアを上げて大量得点への架け橋となるプレーを見せる。途中出場した米子東戦でも 18 得点 13 リバウンドのダブルダブルを達成、新チームの中心を担う一人となる。192cm 永田貴陸はブレイクの先陣を切り、落ち着いたレイアップだけでなくディフェンスに対応された時には即座にジャンパーに切り替える万能選手である。徳田翔太はハイ&ローに加えて 185cm の長身から躊躇なく繰り出される 3P が魅力、ウインター予選・静岡学園では 4 本の 3P を決めて相手の戦意を奪い取った。外周りに目を移すと、高いバスケ IQ を駆使したゲームメイクで昨年もシックスマンとして常に試合に絡んだ高平爽太は米子東戦出場 14 分で 17 得点、2P 成功率は 9 割に迫った。県総体・国スポでも活躍した福本彩人はクラブチーム以来野津の DNA を受け継ぎ何事もオールラウンドにこなせることが強み、全中・Jr ウインター出場経験がもたらす物おじしない「鋼(はがね)のメンタル」をプレーに生かし、米子東戦では 22 得点、プレーに緩急をつけて得点を量産した。

その他にも、フェイダウェイを得意とする山城空楽や昨年の佐賀国スポに出場した董博仁・中島将之介、今年の滋賀国スポに出場した永尾咲翔・端野恵音・森秀野・浜崎煌大・須貝頼勇・関口凜太朗・永留悠星などの全国トップレベルを誇る厚い戦力で県新人 4 連覇・東海新人連覇、入替戦で宮崎工業・福岡第一に連勝しトップリーグへの出場、そして夏の全国制覇に向けてフルスペックで始動する。

県総体・ウインター予選ともに 4 強入りを賭けた試合で静岡学園に敗れて辛酸を味わった沼津中央は東部新人決勝で韮山の長距離弾に苦しみ大苦戦、後半の追撃も及ばず 3 連覇を逃した。昨年は 3 大会とも 4 強入り直前で涙を呑んでいるので今回は背水の陣で 2 年ぶりの東海新人出場を狙う。

超人的な跳躍力で一世を風靡した高木強臣やテクニシャン・中島清之介という主力が一気に抜け、新チームの中心は県内最高身長 207cm ハビブアティザカリファ。県内選手が誰も及ばない異次元な高さでゴール下を席巻、「いの一番」に制空権を奪い得点につなげる。ブロックショットを放ち自らリバウンドを掴み味方のブレイクに乗じてパスを出す技巧派プレーを見せたと思えば、ビッグストライドで豪快にダンクを決める成長も見せた。ウインター予選の静岡学園戦を見た私の感想としては、さらなる成長のために攻守でもっとペイントエリアに入り、接触を嫌がらずに半ば強引気味にもボールやマークマンに絡んでいくと一流プレーヤーの仲間入りが出来ると思う。それだけの潜在能力を持つ選手、「高さは最大の武器なり」という言葉を強く意識してチームの飛躍に貢献して欲しい。渡辺碧波・郷大輝は昨年来リザーブとして適材適所で起用された経験を仲間と共有しチーム力向上につなげ、特に郷の 3P は的確で韮山戦第 2Q だけで 3 本も決め相手を恐怖に陥れた。森田悠月は県選抜に選ばれ東海国スポ・滋賀国スポでも活躍し 2 試合とも得点を決めるなど 1 年生ながらカリファにボールが渡るまでのゲームメイクも任される逸材である。ブロック決勝では藤枝明誠との戦いが予想され、昨年度の県総体決勝以来の対戦となる。カリファとエマニュエル・モドウのド迫力留学生対決にも注目したい。

県総体 7 位・ウインター予選ベスト 8 と安定した成績を重ねる浜松西は西部新人準決勝で公立のライバル・浜松商業に敗れたものの、気を取り直して翌日の 3 位決定戦・浜松湖南には快勝、まずは昨年静岡学園に敗れて逃したベスト 8 入りを最低目標とする。そのためには 2 回戦で予想される沼津中央戦が山場となるが、県総体終了直後から新チームを始動させて今が充実期にあたり「ベスト 8 が最低目標」は決して夢物語ではない。県総体ではポストを中心としたプレーが多く見られたが、ウインター予選では新チームの能力や体格を見極めてドライブ中心のバスケットも取り入れていた。ミドルエリアからのオフェンス展開をうまく使いスペースを機能的に作り出

してフリーのシュートを打ち、さらに多彩なフィニッシュパターンを持って臨機応変にハーフコートバスケを展開、速攻のチャンスには素早いトランジションでレイアップまで打ち切る。

中心となるのはエース・辻本直矢。昨年来先輩とともに常にコートで指示や激を飛ばす熱血選手、広い視野からフロアバランスを読み取りドライブなのかパスなのかをセレクト出来る頭脳派選手、3P を含めた高い得点力を持ち、プレーの好不調も少なくどの時間帯でもムラなく得点を決め、浜松湖南戦では3P5 本を含む 28 得点を挙げる大活躍、今大会でもトレードマークの白いヘッドバンド姿が縦横無尽にコートを駆け巡るだろう。坂本陽樹は昨年から出場を続け、恵まれたバスケセンスを生かして鋭いドライブからのジャンパーを武器に経験値を上げた。ウインター予選・浜松開誠館戦では相手が突き放しにかかるピンチに坂本のドライブが効果的に決まり 22 得点、辻本とともにベスト 8 進出には必要不可欠な選手である。この二人を中心に、181cm・肩幅も広い恵まれた体格を生かしたパワフルなペイントアタックで戦場と化すゴール下に勝負を挑む石田真也、182cm の長身を生かしてセンターを任せリバウンドにこだわり時には外からも勇敢に勝負する花井飛雄、唯一の1年生レギュラーとして先輩の指導を受けながら司令塔を担い安定したボール運びを見せ、時には辻本とのツーガードでも作戦の意図を十分理解して機能させる山田祐碧、そして浜松開誠館戦途中出場して 3P2 本を決めた1年生・深井優孝などの戦力で沼津中央を倒し、藤枝明誠との戦いに挑む。

昨年、県立高校として前人未到の新人戦地区予選 4 連覇を飾り今回中部新人 5 連覇を目指した静岡商業は準々決勝で静岡大成に不覚を取り、中部 5 位で今大会に臨む。昨年県新人・県総体 4 位・ウインター予選ベスト 8、「公立の雄」として平成後期から令和にかけて数多くの公立高校が挑んでは跳ね返され続けてきた「ベスト 4 の壁」を二度も打ち破った強豪は非常に厳しい組み合わせの中からも打開策を見つけて上位進出をうかがう。ウインターまでオール 3 年生で戦い続け、新チームへの切り替えは遅れたが才能豊かな選手が揃い、県総体までの長いスパンで考えれば伸びしろが楽しみなチームである。勝負強さと 3P でチームを牽引するキャプテン・鈴木瑛斗を始め、岡庭正樹・和田渉馬・大原恒輝・大澤奏太・杉山唯月・鈴木陽翔・金刺暖など新進気鋭の戦力でブロック決勝進出を狙う。

西部 10 位・遠江総合は県大会初出場を果たした。平成 21 年に森高校と周智高校が統合し総合学科として新設、今までウインター予選では何度か県大会出場相当の県ベスト 32 入りし「ウインターの遠江」などと言われたことはあったが、予選を経ての県大会出場は今回が初となる。大橋美紀監督は過去に磐田北・横須賀・浜松江之島など県大会に縁遠かったチームを強化し県大会出場の喜びを味あわせさらに上位へ導く「土台屋」の指導力に定評のある名伯楽である。私事で大変恐縮だが 27 年前、私がまだバスケットの「バ」の字も知らずに大橋先生の後任として浜松東高男子監督を拝命した時も、緻密な練習メニューや戦術がぎっしり詰まった手書きのノートを渡してくれて、素人監督で右往左往する私へ折に触れて連絡をくれて的確な助言をしていただきバスケの面白さと奥深さを教えてもらったことを思い出す。いわば私にとって恩人であり競技経験の全くない私がここまでバスケに関わってこられたのも大橋先生のおかげである。

キャリアはないがとにかくバスケが大好きだという面々が集い 2 学年で総勢 30 人の大所帯、「為せば成る」その思い一心で苦しくつらい練習を乗り越えて県切符を手に入れた。足を生かしたディフェンスでランゲームを挑み、個ではなく集団として戦い、オフェンスのスキル不足はコミュニケーションで補いゴールへ向かう。鍛えられた体を存分に使い、ペイントエリア内のポストプレーを軸とし、アウトサイドからのスピードに乗ったドライブを武器とするバランスの取れたチーム、ここまで支えてくれたみんなへ感謝の気持ちを込めて県大会に臨む。1on1 のド

ライブからゴールへ向かう姿勢で試合の流れを変えるポイントガード・水口友翔を中心に、高い運動能力と長身を生かしゴール下やミドル位置でのプレーは迫力満点、精神面での成長が著しくチームの大黒柱として指揮官の信頼も厚い杉山楓芽、ウイングからの加速したドライブが生命線の梅津昂太、そして西部新人を通じて急成長、粘り強いディフェンスが徹底され十八番・ジャンプシュートの精度も上がったハードワーカー・落合遼太、ゴール下のポジション取りからシュートをねじ込むまでの力強いプレーが光る中村羽琉などの戦力で常勝王者・藤枝明誠に胸を借りるのではなく、戦いに挑む気持ちを前面に出して大会を迎える。

その他の注目選手として、杉澤陽向・小林暁大・高田颯馬・佐野一颯・望月優太・大槻瑛太・望月虹晴(富士宮東)、飯村湊太・日吉藍太郎・鈴木優・菊池泰我・渡邊洸・高橋勇人(東海大静岡翔洋)、新堀瑛翔・竹田俊太郎・楠野翔・天野翔士朗・小林稜也・河部侑樹(浜松北)、長山惺・本袋大樹・勝亦惺也・長嶋壯・井原大智・長谷川勇斗(沼津中央)、山下生音・宮崎憧汰(遠江総合)、野田一稀・馬塚陸斗(浜松西)、諸田晴日・伊藤彰之介・白鳥佑宇(静岡商業)などを挙げたい。

ウインター出場による推薦が 2 チーム出たため左下のブロックが最激戦になることは想定内だったが、今回は東部王者・韋山とウインターに出場した浜松学院興誠が順調に行けばブロック決勝で直接対決することになり、そうはさせまいと内側には西部 4 位・浜松湖南、東部 4 位・日大三島が待ち受ける、まさに「死のブロック」と言える。

昨年東部新人準優勝して臨んだ県新人、8 位入賞し初の県ベスト 8 入りを果たし以後も安定した成績を残す韋山は昨年東部新人決勝では 59 点差、ウインター予選では 25 点差で敗れた沼津中央を今回は中盤で優位に立ちながら最終 Q 残り 5 分で一度逆転を許しリードを広げられるも最後まで諦めずに走り切り、最後は井上の 3 連続シュートで相手に引導を渡し 1 点差で見事初優勝、公立高校としては平成 29・30 年と連覇した三島北以来 7 年ぶりの優勝を遂げた。終始イニシアチブを握り粘り強く守り抜いたディフェンスと思い切りの良い 3P、そして最後までブレイクに挑み続けたことが勝因に挙げられる。その勢いのまま今回もまた 8 強入りしブロック決勝も突破して初の県 4 強入りへ、さらには東海新人出場も射程圏内にとらえる。ご存じの通り韋山と言えば「アウトサイドシュートの雨あられ」、典型的なファイブアウト、状況に応じてフォーアウトワンインのバスケでいつでもどこからでも誰からでも 3P が放たれ、それがエグいくらいに高確率で決まり相手を意気消沈ならまだしも戦意喪失まで追い込む空中戦を武器とする。また、粘りに粘る全員バスケで攻守に渡って常に先手を取りに行くスタイル、特にディフェンスは相手に応じて隨時軌道修正することが出来ている。

中心となるのは前年来私がそのプレーを高く評価する新藤穂月。前回 7 位決定戦でマッチアップした小長井(静岡学園)に見せた鉄壁のディフェンスは国宝級、ディフェンスは今大会 5 本の指に入る名手である。前回の展望でさらなる期待を込めて「ドライブにもう少しスピードが加われば」と課題を挙げたが、その後の県リーグやウインター予選ではその点がピンポイントで的確に修正されていてさらにワンランク上のレベルに達した感がある。3P の精度も筋金入りの一級品、数字に表れない貢献度が高い一流選手である。沼津中央戦・3P6 本を決めてアウトサイドの魔術師と化した土屋凜空は安定した 3P 成功率とミートからシュートまでの時間が極めて短いことが特徴、フロアバランスを意識したゲームコントロールにもたけ、相手も対応に苦慮するに違いない。井上峻輔は外からの長距離砲も打てるが決勝では中盤からインサイドでの攻撃に徹し 3P なしの 26 得点を稼ぎ出し安定したミドルとリバウンドで得点源となる。その他にも、ミドルシュートと変幻自在な 1on1 で勝負をする佐久間金助、シックスマンとしてタイムリーに投入され安

定感あるミドルシュートとガツツあふれるリバウンドでチームを鼓舞する川村蓮、有事に備えて万全な準備で出番を待つ深澤慎之介、そして齋藤潤監督が抱く戦術と試合に対する想いを誰よりも理解しチームメイトに伝え、それを強く意識しながら留学生相手にも真っ向勝負を挑む激しいディフェンスと献身的なリバウンドで貢献するキャプテン・水野颯介などの戦力で、難敵・浜松学院興誠を倒して公立高校としては平成24年度の浜松西以来の東海新人出場に焦点を合わせる。

ウインター予選・第5シードで出場し、第2・第3・第4シードを次々と破り2年ぶりのウインター出場を果たし16年ぶりに全国に「興誠」の名を轟かせた浜松学院興誠は前回出場時に15点差で敗れた正智深谷とのリベンジマッチに臨み、試合直後開始からシーソーゲームを演じ、西垣や藤井惺楽の活躍で中盤一時9点差のリードを奪うも、「魔の第4Q」となり相手の怒涛の反撃に遭い万事休す、8年ぶりの勝利を逃したが最後まで攻め続け全身全霊で勝利に向かう姿勢は我々に夢と勇気と希望を与えてくれた。西垣・藤井・末永蒼・宮澤政人という全国を2度経験した選手が引退、特に静岡県代表としてU12, 15, 18全カテゴリーにおいて、さらに国体を含めると通算6回の全国出場という「不滅の金字塔」を打ち立てた末永のキャリアとテクニック、存在感と貢献度は到底穴埋めできるものではないが、ウインターの雪辱を託された後輩たちがその想いを胸に臨む今大会、2年連続の東海新人出場は最低限の目標、10年ぶりの優勝も射程圏内に捉える。どのチームよりも決勝リーグの戦い方を熟知していることも心強い。

中心となるのは下級生で唯一ウインタースタメン出場したナイジェリア出身の留学生・205cmオビオラチディンドウクリスティーン。ウインター予選でこの選手を見てこれが1年生なのか、と目を疑った方も多いと思う。現に正智深谷戦では15リバウンド、特にディフェンスリバウンド12が示す通り、高い位置でボールと捉えてブレイクの起点になるよう素早くリードパスにつなげる技術は目を見張った。昨年県総体で初めて見た時はまだ身体が十分に出来ておらず非力な部分も見られたが、ウインター予選までに10kg以上増量し肉体改造、「戦場」と化す熾烈なゴール下に耐えうるだけのフィジカルを作り「華麗なる変身」を遂げた。ウインター予選・静岡学園戦でも前半終了直前に相手のシュートを背面から追いかけ長いウイングスパンを使ってファウルすることなくブロックしたシーンは会場を大いに沸かせた。リバウンドはもちろん、ロードプリンス(前藤枝明誠高・現江戸川大)を彷彿させる高さと跳躍力を融合させたブロックショットにも注目して欲しい。国スポ県選抜選手に選ばれながら怪我で出場ができずウインター予選でも無念の想いでベンチから戦況を見守り声援を送った1年生・菌部良介はウインターベンチで見事コートに帰還、途中出場から試合の約半分の出場時間を与えられ193cmの高さを生かしたゴール下のプレーを見せ6得点、特に緊迫感が半端ではないギリギリの場面で決めたフリースロー2本は今後のバスケ人生において何事にも代えられない宝となつたはずである。ウインター予選でも効果的に途中投入され指揮官の期待がうかがえる工藤楓はクリスティーン・菌部とともに短時間ながらもウインターという高校バスケ最高峰のコートに立てたことが大きい。得点には繋がらなかつたが果敢に打った2本のシュートは自身のキャリアアップだけでなく今シーズンの初陣でチームを上昇気流に乗せるための財産になったと言える。国スポ予備選手にも選ばれた長谷川雄哉はシュートレンジが広くペリメターエリアどこでも得手不得手なく3Pを決める勝負強さに定評がある。

他にも、スピードを生かしたドライブを見せる川原暖、ミドルレンジのジャンパーを得意とする183cm高田蓮土、ペイントエリアでの得点に境地を開く坂本佳呂主、3Pを得意とする大山流輝の4選手は出場こそ叶わなかったがウインターでベンチ入りし間近で悔しさを味わいそれを新チームに生かすべく練習に精進する。伝統の「粘り強いタイトなディフェンスからの速攻」を

武器に賜杯栄冠へと挑む。

浜松湖南は西部予選最高タイの4位での出場、ディフェンスからファストブレイクやアーリーオフェンスにつなぎ、人とボールが止まらないバスケを心掛けてディフェンス・リバウンド・ルーズボールの球際をハードワークして相手を追い込み、中・外・ミドルを戦況に応じて使い分け得点を重ねる。シュートを落としても必ずリバウンド争いに絡みセカンドチャンスを生かしたり、オフェンス機会を増やしたり出来る機能的なチーム、オフェンススタートの初動も早く速攻からの得点を持ち味とする。高い身体能力を武器に1on1からさまざまな得点バリエーションを持つポイントゲッターの関根悠輝を中心に、ガードもこなせる長身3Pシューター・181cm大石樹生、ディフェンスと長距離砲が持ち味の主将・宮崎基貴、そして何事も器用にこなす長身リバウンダー・183cm清水敦稀などの戦力で東部王者・韋山に一泡吹かせたい。

中部10位・島田樟誠は総体・新人戦を通して初の県大会出場を果たした。就任22年目小塙吉通監督の粘り強い指導で年々実力を付け、県大会まであと一步という状態が長く続いた。特に令和5年中部総体、勝てば初の県大会が決まる大事な静岡戦、相手エースが早々にファウルアウトリし絶対的優位に試合を進めるも土壇場で大逆転され煮え湯を飲まされたが、今回因縁の静岡相手に2点差のクロスゲームを制し見事県大会に辿り着いた。平成22年に島田学園から校名変更し平成30年に男女共学化。昨年度からチームを支えた主軸に期待の1年生が加わり戦力が充実、ここ数年越えられそうで越えられない「県大会出場の壁」を乗り越えるために苦しい練習やチーム内でのコミュニケーション力を意識しながら総合力を高めてきた。オフェンスでは全員が得点を取れることが強み、ディフェンスはボールマンにプレッシャーをかけ、トラップを狙いながらコフィンに追い詰めるなど相手に苦しい選択をさせるのが特徴。「敵は己にあり」を信条に、県大会を賭けた試合では我慢し続けた選手たち全員で勝ち取った勝利と言える。体を張ったリバウンドやポストプレーや思い切りのよいオフェンスが特徴、プレーの幅を広げるため3Pシュートやドライブ力を付け今なお進化を続けるキャプテン・谷村蒼空を軸に、リズミカルなドライブで相手を出し抜くのが特徴、リスクマネージメントも出来るポイントガード・野田陽斗、入学時から主力として活躍、3Pやジャンパーでの得点が期待できる1年生・182cm清水政虎などの戦力で東部王者・韋山に立ち向かう。

総体と比べて歴史が浅く、戦力も完全に一新された新人大会は比較的初出場校が生まれやすい環境にある。今回男子初出場4チームのうちの浜松啓陽もこのブロック。浜松経理専門学校として長く浜松に根付き、福智高校通信制との併修で高校卒業資格も取得できることから、「通信制高校」として定時制通信制大会やウインター予選にも「福智浜松」として出場経験を持ち、平成18年に浜松啓陽として正式に「全日制高校」となった商業高校、創部20年目の区切りの年に見事初の県大会出場を果たした。私も昨年度のウインター予選4回戦で浜松学院(当時)と対戦する姿を見て将来的に県大会争いに加わってくるチームであろうとは思っていたが、県勝利も見えてくる西部7位で初出場を果たすとは思いもよらなかった。各々が各場面で行うべき仕事を着実にこなし派手さはなくともコツコツと蓄積していくチーム、「100点取って勝つ」ことをチームの共通意識とし、2年生6人・1年生3人の限られた戦力で上級生を中心とした「チームバスケット」で県新人に臨む。より一歩早く動き出しが出来るように練習でもメニューの切り替えを早くすることを意識し、常に実践を意識して練習を重ね、速攻と3Pを武器にアーリーオフェンス・セットオフェンスを流れるように展開するバスケットが魅力、予選リーグ3試合では計390点を荒稼ぎした。エースガードの鈴木宏夢は浜松学院戦でも効果的に投入され両軍3年生主体のなか

で1年生らしからぬ度胸と技術を見せて私の瞼にもそのプレーの印象を残した中心選手、強靭なフィジカルで力強いドライブを武器とし、率先して声を発してチームを鼓舞することも忘れない。スピードと巧みなハンドリングを合わせ持ち、相手ディフェンスを崩して突破口を作り出す。西部新人最終日を直接取材した山口副委員長が印象に残った選手として真っ先に挙げたのは彼の名前であったことも付記したい。橋本匡駆も1年次から試合に絡み続けさまざまな経験を蓄積したアウトサイドシューター、どんな場面でも3Pを狙いチームに活力を与える。攻守ともに縁の下の力持ちである守屋佑真は冷静な判断力と3Pが持ち味であるチームの要。脚に慢性的な痛みを抱えながらもそれに耐え抜き個性派集団をまとめるキャプテン・中津川領士は自慢の走力を生かしてスピードとディフェンスでチームに貢献、どのポジションでも求められれば責務を果たすシックスマンである。年始の3試合でも大量得点を挙げて自分たちのバスケットを全う、「攻撃は最大の防御なり」、出場チーム最少9人でのエントリー、初戦はウインター予選・10点差で敗れた日大三島、因縁の相手に自分たちの持ち味を出し切って県大会初勝利を目指す。

その他の注目選手として、石川幸聖・齊藤巧太・宇津朗・坂井聖弥・鵜飼優楓・後藤大佑・鈴木海世・小田隼也・栗田翼(日大三島)、安藤悠翔・太田一平・曾根田澄真・塩崎虎次朗・磯部歩夢・高橋快(静岡東)、杉山大河・池田麗・酒井優作・岡村匡悟(島田樟誠)、加藤泰史・佐藤奏・井瀧陽斗・広瀬逞斗・高田遙生・吉澤直輝(伊豆中央)、杉田竜哉・若松佑樹(浜松湖南)、榎本澤(浜松学院興誠)、金原永武・鈴木嵐・齋藤吹雪(浜松啓陽)などを挙げたい。

右上のブロックは、前回準優勝の西部王者・浜松開誠館を昨年6位・中部新人準優勝の城南静岡が追い上げる展開が予想され、歴代最多11回の優勝を誇る東部3位・飛龍と池谷月楓が抜群の得点力でチームを牽引する中部4位・島田工業もブロック決勝進出を目指して戦いに挑む。

昨年の県新人・県総体ともに準優勝、4年ぶりの全国を目指したウインター予選では惜しくも3位に終わり夢を逃した浜松開誠館は決勝で浜松商業に快勝し2年ぶりに西部新人を制した。長年チームの躍進に貢献した高森カイルは引退したが、木村・後藤という静岡県が全国誇れる逸材と胸を張って断言できるWエースが残り2年連続の東海新人出場はもちろん、一気に初優勝を狙えるだけの戦力が整っている。

まさに華麗なテクニックで見ている者を魅了する木村暁大は怪我でウインター予選の浜松西戦・藤枝明誠戦を欠場したが、出場した静岡学園戦や浜松学院興誠戦では痛みに耐えながらチームの勝利と全国出場のために一意専心ゴールに向かう姿勢に多くの人は感動と感涙を覚えた。バスケセンスとテクニックは今大会渡邊(藤枝明誠)と双璧、今年の静岡県を背負って立つスーパースターである。パス・ドライブ・シュート・ディフェンス、すべてが超一流、書き始めればそれだけで紙面が尽きてしまうので今回は類まれな器用さに触れたい。プレーの器用さもさることながら、「利き手が両手」というまずお目にかかる「二刀流」のアドバンテージを持つ。先天的なものもあるがそれを磨いて武器にしたのは彼の人知れない努力、戦況を見極めて右でも左でもシュートを放ち、連動する利き足も左右に難なくステップを踏み出せる。映像を見ても相手が対策に白旗を挙げるまさに天賦の才能の持ち主、怪我の影響で西部新人は欠場、県新人への出場も不透明ではあるが、焦らず治療やリハビリに専念し万全な状態でコートに戻ってきて欲しい。木村とともにチームを支えるのが後藤大駕、言わずと知れたU18日本代表経験を持つ大器である。もちろん昨年の県総体までも197cmという日本人として未体験ゾーンとも言える高さを生かしたパワープレーを十分見せていたが、ウインター予選ブロック決勝で約5ヶ月ぶりにプレーを見た時、その成長と進化に度肝を抜かされた。ゴールへ向かう気迫が前面に表れるようになり、

高さと力強さが見事に調和し、根拠に裏打ちされた頭脳プレーも連発、機能すればそれが自信につながりますますプレーのクオリティーが上がっていた。特に木村がコートにいない時間帯や出場していない試合では木村の心境を察しながら仲間に指示を出し、自分もその言葉以上に率先して動いていた。浜松西戦では無双状態の38得点、決勝リーグ3試合でも計42得点、数字だけでなく絶妙のタイミングで得点を挙げるが多く、大会後の広報委員会議でも山口副委員長と「後藤は大きく成長した。プレーのタイミングや見極め、迫力が数段上がった」と褒め切れない時間が続いた。静岡県の至宝から「日本の至宝」へと羽ばたくべく、この大会での活躍がその試金石となる。西部新人でもチームは後藤を中心としたロープостを軸にオフェンスを展開、当然彼が徹底マークに遭うことも想定されるが、簡単にボールが入らなくても、アウトサイドからのアタックへ切り替える対応をチームの攻撃力として併せ持ち、隙がない陣形となっている。西部新人決勝では火花散るポジション争いの中でオフェンスチャージを取られる場面もあったが、それもある意味では得点・勝利への飽くなき貪欲さが前面に表れた結果と評価する。相手も対策として、近年世界で少しずつ主流になりつつあるストップファウル(ファウルで相手の攻撃を止めること)しかない万策尽きた状態、まさに「ゾーン」に入った正真正銘のトップアスリートである。石田唯翔はウインター予選で大活躍、特に木村欠場というチームの大ピンチにそれを補って余りある貢献をした。特に浜松学院興誠戦ではチーム最多の16得点、藤枝明誠戦でも17得点を記録、敗れたものの得点力の高さとフリースローの正確さを改めて実感した。シュートタッチの柔軟性、相手のドライブを阻止する素早いクローズアウトが攻守の特徴である。鐘ヶ江咲人は滋賀国スポにも出場し途中からコートインして勝利に貢献、ウインター予選では浜松西戦17得点、決勝リーグ3試合でもすべて途中出場ながらドライブを使ったプレーで22得点を挙げた。強い体幹による安定したシュート力を持ち、タフショットも難なく決める。U16日本代表エントリーキャンプに2度招集された経験を持つ鈴木柊矢はプレー全體がはつらつとした印象、浜松商業戦ではチーム最多の20得点、187cmの長身を生かした得点力や器用な体の使い方でインサイドへドライブする攻撃力をを見せた。日高瑛仁は西部決勝でスタメン出場、チーム唯一の3Pも決めディフェンスでは体を張ったバンプを見せるなど成長著しい選手である。

その他にも、全国を賭けたウインター予選決勝リーグ全試合にスタメン出場、密集地帯に果敢に飛び込むリバウンドを見せた野口宗昭、トリッキーなパスやドリブルを見せ、人もうらやむ瞬発力で攻守に貢献する宮城琉希、そしてチームを鼓舞する姿勢と周りへの気配りに仲間はもちろん指導者からも信望が厚い小長井奏空など毎年日本人選手だけでチームを作り上げ県上位を維持し、後藤のように留学生に高さでも体力でも負けないインサイドを育てていく貴重なチーム、常にボールと人が機能的に動く堅守速攻のトランジションバスケで県制覇を狙う。

城南静岡は昨年度県総体6位・ウインター予選ベスト8・県新人6位、今年度も県総体8位・ウインター予選ベスト8と5大会連続ベスト8入りの安定した実力はライバルチームにとって脅威の的、今回は平成27年度県新人から挑み続けている「県4強の壁」を打ち破るべく背水の陣で大会に臨む。中部新人では決勝で静岡学園と対戦、前半は優位に試合を進めるも後半相手の猛攻に耐え切れず10点差で敗れ準優勝に終わった。しかしながら試合を見ていると選手層が厚く、戦術に応じて5人まとめて交代するツープラトンを用いても戦力維持がきちんとされていることに驚くとともにファースト・セカンドユニットどちらも高い能力を発揮、効果的にインサートされるゾーンプレスや躍動感ある強気な攻めで相手を苦しめる。木村零月は縦への切れ込みに上手さと速さを持ち、トランジションゲームでは誰よりも実力を発揮、ディフェンスではトップのボールマンに対する密着した位置取りは素晴らしい、鍛え抜かれた上腕の筋肉にも注目して欲しい。市川天道は言わずと知れたこの世代のホープ、入学以来高い能力を発揮しどんなプレーも

難なく器用にこなすオールラウンダー、中に切れ込むドライブとともに恵まれた跳躍力を利しての3Pを武器に途中出場した静岡学園戦でも3P4本を含む22得点を挙げて爆発的な攻撃力を持つことを誇示、少しでも長くコート上で雄姿を見たい選手である。他にも小長井流生・中山瑛仁・宮城島瑛斗・山田雄生・宮島裕翔、そして層の厚い個性派軍団を機能的に使ってゲームメイクし自らも得点源となるキャプテン・影山奨真などの戦力で初の県4強を狙う。

東部9位・誠恵も初の県大会出場。平成11年に沼津北から校名変更、広島市立美鈴が丘高時代に全国出場を2度経験した田川誉高監督の徹底した熱い指導が就任20年目にして実った結果となった。一昨年も当時日本人最高身長193cm・中田舜(現常葉大)を擁し県大会出場のチャンスはあったが結実せず、さらに2年を要して今回その夢が叶った。勝利に飢え続けた雑草軍団がこの大会で一気に出場校最多の6勝を挙げて成長したことは「白星は最大の良薬」の言葉通り自信と向上心を植え付けた。昨年から試合に出ている上級生を中心に、中学時代に県大会出場経験をもつ下級生で編成されたチーム、ポジションにとらわれることなくインサイドで体を張りチャンスを作っていくオフェンスシステムと、泥臭く40分間プレッシャーを掛け続けるチームディフェンスを武器とする。ポストアップやボールキャリーまで器用にどのポジションもこなし、チームの大黒柱として勝利に貢献したキャプテン・望月智詞や東部新人・沼津東戦でも連続得点を挙げた廣末莉久を中心に、入学直後からレギュラーを勝ち取り安定したボール運びと堅固なディフェンスで勝利へ導くガード・土屋懸、駆け引きのうまさを生かしたディフェンスや1on1や3Pを得意とし沼津東戦でも3P4本を含む20得点を挙げたヴィリアジアンイワゾ、そしてバスケIQの高さを生かしチームに勢いをもたらす3Pや体を張ったポストプレーで内外から加点できる村上頼などの戦力で初の檜舞台に臨む。

その他の注目選手として、宮島蓮・八木敦聰希・飯塚芯・中村航也・登澤朋哉・近藤隼平・内山恒天(島田工業)、佐藤愛琉・佐野匠・眞鍋丈琉・吉原輝・有谷春輝・石井伯弥(浜北西)、平島大瑚・三上晃輝・丸林諒太郎・齊藤千隼・海野友飛・小田紘也(静岡城北)、増田大也・加藤輝己・赤堀慎・西山央甫・増田そら・原田涼成(常葉大菊川)、植木凰雅・鈴木悠・杉山瑞瑠・内田瑛梧・清水獅王・笹原翔流・市川敦基・繁田桃・村松聖夏・山口武蔵・遠藤修都(飛龍)、荒川檜翔・柳川直人・小栗春澄(浜松開誠館)、サブランシャン・杉原凜遠(誠恵)、久保山友羽・小澤友宝・安藤大樹・山田侑享(城南静岡)などを挙げたい。

右下のブロックは、中部王者・静岡学園と西部新人準優勝の浜松商業の決勝リーグ進出争いに中部3位の静岡大成が割って入れるかが注目となる。

県総体3位・ウインター予選4位の静岡学園は中部新人決勝・城南静岡戦では相手のトリッキーなディフェンスを攻めあぐみ苦戦を強いられたが、後半ガード陣のペイントアタックやリバウンド奪取が効き始め6年ぶりに中部新人を制した。今回はその時以来の東海新人出場を狙う。

県協会優秀選手に選ばれた内山直陽・大長真士をはじめ、小永井優磨・小野田礼輝・五條漱士のスタメン5人がごっそり入れ替わり、まさしく「新チーム」となっていくなかで中心となるのは石井蓮音。控えの選手1番手として昨年来勝負所で指揮官の熱い想いを胸に投入されて、得意とする縦へのスピードあるドライブでゴール目指して突進してきた。日本人選手だけで留学生を抱えるライバルとどのようにして互角以上に対峙していくかをチーム全体の課題として探究する上で彼が留学生相手にもテクニックとスピードで挑む姿は静岡学園が掲げる「考えるバスケ」の申し子と言える。186cm細澤慧太郎は小野田の代わりを要所で務めて期待に応え、常に現状維

持以上の仕事を果たしてきた。彼のハイライトはウインター予選決勝リーグ初戦、勝った方が全国に大きく近づく事実上の全国出場決定戦の模様を呈した浜松開誠館戦で偉大なる先輩とともにスタメンを飾ったことである。私もティップオフ直前にセンターサークルに並んだラインナップを見て正直驚いた。ただそれだけの信頼感を指揮官が彼に抱きながら起用したことは間違いない。相当なプレッシャーと指揮官・先輩たちからの期待というジレンマに苛(さいな)まれながらも重責を果たしたことに及第点を与え、そしてその成果が今回の中部新人で186cmの長身をアドバンテージにゴール下で躍動した活躍につながり、エビデンスに基づいた近野修監督の「先見の目」を改めて強く感じた。課題としては重度な責任感から過度な気負いが見られる場面があり、気持ちを落ち着けて今そこにある問題にだけ専念してプレーすると才能をもっと発揮できてプレーに重厚感が増すと思っている。ゲームキャプテン・中澤和雅は攻守何事にも一所懸命、愚直に泥臭くボールに突進しゴールを狙う姿勢には好感が持てる。守備では接触を厭わずハーキーステップで相手のコースに入ってシリnderを侵さずプレッシャーをかけ次の一步を踏ませず、攻撃では巧みにレッグスルーを駆使して相手のタイミングをずらし一気呵成にドライブを仕掛ける。ゴール下では背面からブロックに飛び込んだ相手をかわすためにとっさに左でシュートを決める場面もあった。このようなプレーは練習でも利き手以外でシュートを打つ鍛錬をしていないと一朝一夕には実践できるはずがない。伝統ある静岡学園の系譜を踏襲しながら新時代の「静学スタイル」も見せる司令塔が現れたことほくそ笑んだのは私だけではない。

その他にも、東海国スポのメンバーにも選ばれた実績を持ち大型センターと対峙した際の脚の使い方に工夫を施すなど職人気質のプレーが目立つ鈴木麻也、ディフェンスを引き付けてスペースを生み出し仲間の合わせを待って剛腕からワンハンドでパスを出しアシストを繰り返す中原輝海、ウイング位置で立ち止まりインサイドに絶妙なパスをだす中盤のつなぎ役・清久春樹、カッティング技術に一日の長があり角度のないところから3Pもそつなく決める杉山優生、チーム随一の長身190cmを生かしたポストプレーで得点を奪う永田史晏など偉大な先輩の後ろ姿を見て学び、これから実戦経験を繰り返して成長していく金の卵が揃っている印象を受ける。3年生が成し得なかった東海新人出場を6年ぶりに手中にするためにはまずブロック決勝で対戦が予想される浜松商業戦を確実に制さなければならない。一昨年は新人・総体・ウインター各予選すべてで対戦し静岡学園の1勝2敗、その時とは戦力が変わって戦績は参考にならないが、今回もバスケットの神髄が見られる好勝負となるだろう。

浜松商業は西部新人決勝で浜松開誠館に惜敗したものの3年ぶりの準優勝、内枠の好位置に付け21年ぶりの東海新人出場を目指す。昨年は三大大会すべてで県ベスト16止まりとなったが本間光一監督就任から約1年、チーム内に「本間イズム」がすっかり浸透してきた感がある。小島颯也という絶対的司令塔が抜けた穴を埋めるのが急務だが、外回りはキャリアを重ねた素材を多く抱える。

全員がコート全体を広く使ってスペースを空け続け、ボールを止めることなく動かしドライブやカットインでシュートチャンスを生成する。無駄な動きが少なく常にゴールへ向かって攻め気を見せ、浜松開誠館戦では中盤でボールをつなぐ役割を担う役割の平塚大輝がミスマッチながらも体格を生かして身長差20cm以上もある後藤とのポジション争いに負けずに体を張り続けペイントエリア内で簡単に仕事をさせない献身的なプレーを見せた。これは数字には表れないが単に失点を抑えるというだけではない重要な意味を持つプレーであり、与えられた役割をやりきるチーム作りが垣間見られた。そして後藤という世代を代表するスーパースターと互角に対峙出来たことに自信と誇りを持って欲しい。183cm和田悠心は1年次から試合に絡みキャリアを重ね成長を遂げた大器、高いバスケIQを生かしたセットプレーで戦術に基づきながら時には臨機応変に

対応できる選手である。181cm 辻村未来は長身を生かしたゴール下のプレーが魅力、途中出場した浜松開誠館戦・限られたプレータイムの中で13得点、効率の良い攻めが出来る選手である。中山雄陽も和田とともに昨年から出場機会を多く得てチーム随一の長身 185cm を活用したリバウンドや巧みなポストアップを見せて、高い1on1能力で突破口を作り出すことができる。1年生松田悠杜も183cm、180cm オーバー4人を抱える公立高校も珍しい。

その他にも、Jr. ウインター出場経験のキャリアを武器に浜松開誠館戦でも 3P2 本を含む 14 得点を挙げ、脚力が強く加速力のあるドリブルやバックステップが強みの伊藤来晟、相手の動きをよく察知し相手が刹那に見せる守備のほころびを見逃さず攻め入るキャプテン・坪井達真など、常に泥臭く戦うためにオールアウトで鍛えられディフェンスに主眼を置いて勝利を目指す面々で、ブロック決勝で予想される中部王者・静岡学園との注目の好カードを制し一気に東海まで疾風のように走り抜ける。

**静岡大成**は中部新人準々決勝で静岡商業の5連覇を阻止する劇的なアップセットを起こし、3位決定戦でも島田工業を寄せ付けず、新人・総体を通じて最高位となる中部3位で県新人に臨む。従来のドリブルバスケから今季はパッシングバスケにモデルチェンジ、山本翔生監督が選手の素質を見抜き、その時のメンバーに一番マッチするスタイルを掲げたその眼力に敬服する。ブレイク主体のバスケを中心となるのはともにフィリピンにルーツを持つ二人のエースである。ビエンシャンは夏の静岡市フェスティバル選抜選手、コートを走りに走って人とホールが常に動き続けるバスケットを体現する。ヴィリヤジャンハツは体幹が強く、ファウルされてもそのままバスカンを奪いに行くファイティングスピリットあふれる選手、普段はレフティーであるがブロックが来ると左手で遮りながら右手で難なくシュートを決め、リバウンドではバネを使っての跳躍力で高い位置でボールを捉えそのままタップで決めることがある。この二人を筆頭に、ゲームメイクがきちんと出来る得点源・島田工業戦では17得点を稼いだ八木奏来澄や、栗田琳蔵・鈴木彪斗・太田蒼星などの戦力で創部22年目の県8強入りを狙う。

2年ぶりの出場となる科学技術は昨年の中部新人・中部総体ともに予選リーグ敗退、今回完全フリー抽選から上位シード校を次々倒し中部6位で県新人出場を果たした。ウインター予選も県ベスト32入りを果たした地力のあるチーム、私も工業大会で直接対戦したがビッグマンを多く擁し高さとスピードと技術が見事に調和したバスケットが機能している印象を受け、中部新人では静岡学園と静岡商業に敗れたが両試合とも中盤までは互角の戦いを演じた。インサイドには屋台骨である190cm 平澤遼介をはじめ、184cm 児玉祥磨・187cm 阪本玲桜などが待ち構え、司令塔には焼津市選抜として夏のモンゴル遠征にも参加した戸篠悠海が広い視野やバスレンジを有効活用しゲームをコントロールする。他にも、同じくモンゴル遠征に招集された駒井豪人、静岡市立戦で途中出場し決勝点となる3Pを決めた松永大和などの戦力で創部18年目での県大会初勝利を目指す。工業高校大会優勝・浜松工業との対戦は1回戦屈指の好カードである。

他の注目選手として、鈴木貴斗・後藤礼哉・川口颯太・岡田優和・長谷川泰一・松本侑磨(三島北)、野木涼光・高村謙司郎・廣田悠人・山添太耀・永田大貴・大嶽聰太(沼津東)、土屋悠・海瀬太希・仲澤猛・塩崎蓮貴・岩崎充輝・山中奏和・勝又琉光(加藤学園)、中澤優乙・村本尚輝・坂口司・五十嵐凱音・岩渕蒼生・松浦巧真・山本流空(浜松工業)、高橋暖智・水上陽向(静岡学園)、山本陽大・望月暖夢(科学技術)、望月剛志・松永獅文(静岡大成)、久野綾大・山本源太(浜松商業)などを挙げたい。

## 【女子】

今大会も現在県内大会 27 連覇、10 年近く他チームに賜杯を渡していない無類の強さを誇る浜松開誠館の総合力が断然群を抜いている。そのような状況下でも、ウインター予選準優勝の市立沼津、昨年全大会で県 8 強を堅持し今回圧倒的な実力で中部を制した常葉大常葉、そして昨年準優勝の浜松南などの地区王者が無双女王を倒して賜杯栄冠を目指す展開が予想される。昨年はこの大会で 10 年続いた浜松開誠館の連勝が止まった事実が改めて全国大会出場チームにとって新人大会の難しさが浮き彫りになった。新チーム始動時期に差があり、始動して半年以上経過しているチームもあれば、ウインター予選後に始動、さらには本戦終了直後の年末に始動し約 1 ヶ月で予選なしの県大会、今年初の公式戦となることから、強豪チームほど調整が難しいことは明らかだがその点も踏まえながら各チームの初陣(ういじん)に注目したい。

左上のブロックは、大会 8 連覇中の浜松開誠館が群を抜く強さを誇るのは周知の事実、その王者とブロック決勝での対戦を賭けて、東部 3 位の三島北と中部 3 位・静岡商業の対戦が予想される。

大会 9 連覇を狙う浜松開誠館はウインター予選準決勝・浜松学院興誠戦で近年にない苦戦を強いられ残り 4 分で 3 点差まで迫られるなど見ている側も「ついに連覇が途絶えるのではないか」と思わせる展開となり、決勝でも市立沼津と最後まで点差が離れない過去に類を見ない苦しい戦いでウインター予選 10 連覇、県内大会 27 連覇を飾った。同時に試合中も指揮官を始め選手にも相当な危機感が高まり、窮地に陥った時の逆境における本当の強さも見ることが出来た。ウインター本戦では令和 4, 5 年と 2 年連続 3 位に輝いた強豪・東海大福岡と対戦、190cm の留学生相手にも物怖じしない積極果敢な攻めを見せ 8 点ビハインドで前半を折り返し、後半も 9 点差のまま両軍ともに得点が止まる膠着状態の中、突破口を見いだせず惜しくも初戦敗退となつたが高さに勝る相手にもスピードとテクニックで相手を翻弄するバスケを見せ、特に前川は 3P3 本を含む 19 得点を挙げチーム全体を鼓舞した。上級生は前川・持田莉子の 2 人だけで臨んだウインター、確かに 174cm の長身を利したポストプレーやりバウンドでチームの屋台骨となっていた持田とこの世代を代表する司令塔で U18 日本代表でもある前川が抜けた穴を埋めることは容易ではないが、昨夏以来先輩の薰陶を受けながら経験値を積んだ下級生たちを多く抱え、県内連勝が止まつた昨年以上に危機感を持ちながら大会に臨み、連覇を伸ばしていくに違いない。

中心となるのはウインターで 3P3 本を含む 13 得点を記録、インターハイ・聖和学園(宮城)戦でも 22 得点を決めており大舞台に強いことが改めて証明された垣内優希奈。精度の高い 3P とウイングから鋭角に切れ込むドライブやエルボー位置から華麗に放つジャンプシュートで得点を量産するスコアラー、特にドライブは緩急にあふれ状況によっては遅攻にも切り替えるなどプレーの予測が十分出来る頭脳派、低い体勢からのスピードを駆使したレイアップも絶品で今年の県内高校女子最大の注目選手、ウインター予選では左肩を脱臼しながらも痛みに耐えて戦い続ける姿に心を動かされた観客も多いはずである。今年度の県協会 U18 優秀選手に選ばれた小林陽菜乃も垣内に勝るとも劣らない注目選手、緊張感とプレッシャーが半端ではないウインターの晴れ舞台で前川とともに 40 分間フルタイムで出場、監督からの厚い信頼と無尽蔵なスタミナ、そして多彩なオフェンススタイルを見ることが出来た。スピードあふれるドライブや飛び込みのリバウンド、正確な 3P、インテンシブなディフェンスなどでチームを牽引、東海制覇を見据えるチームのキープレーヤーでもある。1 年生に目を移すと、高精度でリングを射抜く 3P やドライブ・ミドルで得点を重ねる点取り屋・吉田光咲はウインターでも 12 得点、彼女のポテンシャル

を考えれば何ら不思議ではない活躍だが、さらに特筆されるのは積極さが前面に出たディフェンス、1試合で6ステイールを成功させた。ステイールするということは必然的に相手にターンオーバーが記録されこの試合相手が喫したターンオーバーは21、吉田の果敢なディフェンスに刺激されてチームの守備に相乗効果をもたらしたと言える。今大会最高身長176cm・舟久保汐も初のウインターで堂々スタメン出場、プレイングタイムも27分を数えてキャリアを積んだ。長身を利したリバウンドやファウルレシーブ後でも慌てることなくバスケットカウントを決めたあと、落ち着いてアンドワンもリングに入るプレーに次世代スターの雰囲気が漂う。ウインター予選・準決勝では試合中に口腔内を負傷し決勝戦への出場が危ぶまれたが、痛みに耐えながら翌日スタメン出場しチームの泣き所でもあった「高さ」という課題を十分埋める働きで優勝に貢献した。前川引退後も上記残りのスタメン4人が残っていることも今年の浜松開誠館の強さの一因であると断言する。

その他にも、14分間聖地・東京体育館のコートに立ち、広いシュートレンジを見せリバウンドにも奮闘、最後は涙のファoulアウトとなつたがその闘志溢れる姿勢は必死に戦う選手の模範となった齋藤プレガマリアム、U16日本代表強化合宿参加経験もありウインターにも出場、オフェンスではゴール下のジャンパー、ディフェンスでは174cmの長身と身体全体のアジャリティー(機敏性)を生かしたプレーで存在感を放つ古屋和奏、緩急に富むドライブを見せる佐藤みなみ、ドライブから相手の出方に応じて素早いキックアウトを見せる片岡美紗、そしてウインター予選前に膝に大怪我を負いながら懸命にリハビリに励み、今大会での出場は厳しいながらもチームの精神的支柱としての役割を果たし続ける県協会優秀選手・牧田知紘など、例年以上にキャリアを重ねた厚い戦力で今年最初の公式戦に臨む。県大会優勝はもちろんであるが、今まで目前まで迫りながらもいまだ辿り着けていない東海新人優勝も目指して常勝女王は今年も勝利へ勇往邁進する。

三島北は東部新人・準決勝で市立沼津に敗れたものの3位決定戦で沼津中央に競り勝ち東部3位での出場、初の県新人8強が射程圏内に入ってきた。このチームの特色は爆発的な攻撃力、準々決勝・加藤学園戦も上記の沼津中央戦もダブルスコアまたはそれに近い点差で相手に圧勝している。さらには沼津中央戦では「天下の宝刀」飛び道具が炸裂(さくれつ)、3選手による11本の3Pが乱れ飛び中盤では7本連続3Pが決まり相手を意気消沈させた。まさに「圧巻」、佐藤晴里奈・菊地萌衣とともに4本ずつ、高田美月が3本、決まりだしたら止まらない空中戦だけでなく、渡邊真奈はベースラインドライブ、渡邊怜奈も落ち着いて決めるフリースローでチームに貢献する。室伏美結は控えの切り札として出番を待ち、ここぞの場面で投入されて結果を残す選手である。どこも真似できない高確率の3Pでまずは8年ぶりの県新人勝利を挙げ、静岡商業との対戦が予想される2回戦にも勝利を収め、女王挑戦権を獲得したい。

昨年大会8位の静岡商業は中部新人準々決勝で県総体8位の清水南に2点差の勝利、3位決定戦でも粘る静岡大成を最終盤に鬼気迫る攻めで振り切り、中部3位で2年連続のベスト8以上を目指す。今年の特色は例年にも増して組織的なディフェンス力が強化され、接戦のロースコアゲームをものにして勝ち上がってきた。長谷川海尋・小杉凜という175cm超の選手が引退した今季、アンダーカテゴリーで日本代表経験を持ち国スボ成年女子監督も兼任し特にインサイド選手の育成には定評のある谷川奈穂監督の手厚い指導を受け成長を続ける171cm清水姫花梨を中心に、外回りには広い視野からパスを出したあと戦況に応じた適材適所の動きが出来る本間瑠夏、重心を低くし常にボールマンのボールに触れながら相手に警戒感を持たせて初動を遅らせるディフェンスができる水野環、そして体と腕は相手に、視野はボールにと徹底したスクリーンアウトで

チームにリバウンドチャンスをもたらす池上茂実など、高さが十分でない分を補って余りある執拗なディフェンスそして節目で有効的に決まる3Pで昨年を超える成績を狙う。

このブロックの西部8位・浜松西は11年ぶりの県新人出場となる。昨年度からチームを支えてきた上級生を軸に併設中等部から入学した1年生が脇を固めるチーム。県総体出場を逃した悔しさを糧(かて)に日々の練習からハードワークと練習の質を高めることを意識、プレイヤー同士の連携を強めることにより経験が浅い選手も相乗効果で力を発揮、試合中攻守で息の揃ったプレーが見受けられ、ウインター予選から再確認し始めたチームディフェンスの大切さが功を奏し、相手の特徴に合わせてチェンジングしながら失点を抑えることに成功、西部総体で逃した県大会出場を手中にした。エースの神村優衣は高校入学直後にインサイドからアウトサイドにコンバートされてジャンプシュートやドライブでの得点が劇的に増えた頼れるキャプテンである。大黒柱の牧野汐葉は新チームになってポストアップだけでなくドライブや3Pでの得点が増えプレーの幅を広げ続けるオールラウンダーである。1年生に目を移すと、入学直後から出場を続ける司令塔・村木陽菜は西部新人でも3Pを量産、相手の反撃の芽を摘む効果的な役割を果たした。インサイドの奥村真帆はスタッツには表れないリバウンドコンタクトやヘルプカバーで誰よりも闘志を見せる。県出場の目標から県勝利にステップアップさせて三島北との初戦に挑む。

その他の注目選手として、池谷璃子・久保田未瑠・鈴木花音・廣瀬あかり・大谷歩萌(浜松日体)、小杉理湖・今村心海(浜松西)、芹澤芙実香・芹沢天音・杉山未来・長澤鈴・石田理琴・仲保綺実・勝又小葉音(御殿場南)、佐藤ひなた・日吉希心・唐島田華・齋藤美桜・村上里桜・山本雪那(飛龍)、岸山愛海・小澤彩葉・青野愛琉・緒方智咲・一ノ瀬未桜・伴野結奈・増田百萌那・原崎璃依(駿河総合)、石上小遙・望月杏詩・小林ひなた・櫻井葵・文谷柚華(静岡商業)、平野夢歩・鈴木千夏・斎藤蓮・彦坂柚奈・杉浦凜(浜松開誠館)などを挙げたい。

左下のブロックは、前回大会準優勝・西部王者の浜松南が一步抜けている感があるが、ブロック決勝での対戦が予想される東部新人準優勝・沼津商業もウインター予選・浜松開誠館戦で見せた攻め気満点のバスケットを見せればさらに興味深い展開になるだろう。

県新人準優勝・県総体3位、ともに続けて出場した東海新人・東海総体でも勝利を挙げ2大会連続で「東海ベスト8」の栄誉に輝いた浜松南はウインター予選で市立沼津に逆転負けを喫し3大会連続で堅持していた県4強の座を手放した。今回はウインター予選3位・浜松学院興誠との決勝を制し西部新人連覇、3大会連続の東海出場は最低限のノルマ、昨年決勝リーグ最終戦で2勝目を挙げながら惜しくも該当チーム同士の直接対決勝敗で逃した県新人初優勝をも狙う。昨年來県協会優秀選手・鷹野瑠美や萩原静音などの先輩に混じって試合に出場した下級生が主力となり、堅実なディフェンスからブレイクに連動するスピードバスケで浜松開誠館と遜色ない層の厚い戦力が揃う。

大型選手が揃うが、どの選手もインサイドだけでなくアウトサイドからのドライブもでき、サイズに似合ったオフェンスでよりイージーなシュートとなるチャンスを作り出し、得点を狙いドライブやオフボールのカットインなどでゴールへ向かうバスケット、3Pだけに頼らずペイントエリアでの勝負も目立つ今季、中心となるのは東海国スポでも活躍した司令塔・金子莉央。中学時代にU15全国クラブで3位・ベストシューター賞・大会ベスト5にも輝いた実力派、卓越したゲームコントロールもさることながらポストを絡めた得点パターンとアグレッシブな守備にキャラクターを感じるキーパーソン、西部新人・浜松聖星戦では広いシュートエリアから27得点を挙

げてスコアラーとしての貫禄を見せた。昨年度の東海国スپにも出場し県協会優秀選手受賞経験もある相澤彩乃は172cmの長身を利したポストプレーや積極的に試みるショットブロック、そして卓越したパスセンスでペイントエリアを席卷する。169cm 金森柚妃と言えば高確率に決まる3Pが真骨頂、いつもゴールを意識し積極的なシュートと強靭なフィジカルを生かしたリバウンドが冴える。172cm 鈴木瑚々は少数精銳で戦った市立沼津戦でも指揮官の期待を胸に途中投入されシビアなゲームを体感、その経験を生かして臨んだ西部新人・浜松興誠戦ではスタメン出場し持ち前のリバウンド・ミドルだけではなく3Pを3本も決めてオールマイティーな面を見せた。インサイドにはリバウンドや外角からのドライブ持ち味のチーム最高身長174cmの鈴木華蓮も控え、サイズに恵まれた2年生が揃うのも強みである。

1年に目を移すと西部決勝でも先輩に混じってスターティングファイブに抜擢され、3P3本を決めて連覇に貢献した西沢紗奈や今大会一番の小柄選手・山椒は小粒でもピリッと辛い、そのことわざ通りに高身長選手との差別化を明確にするために日々の練習でブラッシュアップされた巧みなドリブルとグッドパスの連発を見せる 148cm 数原沙輝など多種多彩な戦力で昨年果たせなかつた優勝の二文字を目指し躍進を続ける。

ウインター予選ベスト8・沼津商業は圧倒的な点差で2年ぶりに東部新人決勝まで駆け上がってきたものの、市立沼津に惜しくも敗れ準優勝に終わった。ウインター予選・準々決勝では圧倒的不利の予想の中、王者・浜松開誠館を慌てさせる試合を演じ場内を沸かせたことが印象に残る。三浦咲という心身ともに支柱となった主将は抜けたが、県武道館のコートを踏んだ主力が残り決勝リーグに進む可能性も十分ある。キャプテン・田口心優は昨年來から試合で重用され、ウインター予選・浜松開誠館戦ではスタメン起用されて3Pを決め、新チームでは攻守の柱として心身ともに模範となり活躍、浜松開誠館戦で途中出場した熊谷結月や市立沼津戦途中出場の渡邊紅玲羽も高さでチームに貢献する。下級生では市立沼津戦で3Pを決めた森山結愛、東部新人・沼津中央戦で24得点の大活躍をした稻田千優、168cmの長身を生かしたゴール下や正確なフリースローでチーム最多の15得点を挙げた河野麻穂、玄人好みのプレーでボールをさばき仲間を生かす稻田千愛などの戦力で、足を止めずに常にコートを駆け回りフェイントやスクリーンを使って相手とのズレを作つて隙を突きスペースを生み出すバスケットで県新人初の4強、そして東海新人初出場を目指す。

西部4位・浜松聖星も侮れない。サイズのない部分を豊富な運動量で補い、リバウンドやディフェンスなどのファンダメンタルを徹底する。高い位置からプレッシャーを掛けミスを誘発させ、ボールを奪つて速攻につなげて相手ディフェンスの陣営が整わぬうちに攻め切るバスケ、淀みなくディフェンスのズレを作り出す動きを見せ、生み出されたスペースを見つける能力も高く、空いたスペースに素早く飛び込みパスをさばく。ゾーンアタックに関しても体の使い方がうまく、パスを回してディフェンスを動かしながらポジション取りでフリーを作り、ディフェンスにおいても高い連携能力で1人目が抜かれても素早くリカバリーする。たとえ窮地に立たされた状況でもワンゴール決めると一気にモチベーションを上げチーム全体が息を吹き返し、立て続けに連続ゴールを決め、追われる側に焦燥感を与えるバスケットも特色。神谷安璃・富永悠香・鈴木美虹・鈴木杏奈・高澤詩織・増田芽衣・大場有夏などのキャリアとテクニックを持つ戦力で2回戦での対戦が予想される沼津商業に競り勝ち2年ぶりのベスト8進出を目指す。

他の注目選手として、山地愛花・柴田聖菜・金子はずき・石橋咲歩・後藤瑠夏・國谷佳花(浜松湖南)、小里陽詩・佐藤あや香・樋口凜優・松下莉子・川上奈子・増井日南乃(磐田北)、

宮城島夢子・神谷芽維・平岡希星々・飯田萌日花・手塚希海・平沢妃花(清水南)、坪内杏香里・元野日葵・鈴木麻由佳・松浦零・藤本理瑚(静岡)、浅田海・五十嵐小梅・春川姫香・清優香・前田うらら・長澤海音(沼津中央)、安間早紀・大隅友梨乃・夏目紗歩(浜松南)、加藤和奏・諸伏なごみ(沼津商業)、松平光稀(浜松聖星)などを挙げたい。

右上のブロックは、順調に勝ち上がれば中部王者・常葉大常葉と西部新人準優勝・浜松学院興誠が昨年来4度目の対戦がブロック決勝で実現する。果たして常葉大常葉の「4度目の正直」は果たされる、ブロック決勝屈指の好カード、どちらに勝利の女神が微笑むのか全く予想がつかず今回も残り1秒までわからないシビアな戦いになるはずだ。

**常葉大常葉**は中部新人決勝でウインター県予選3位の藤枝順心に快勝し見事8年ぶり、そして令和初の中部新人を制した。その勢いと蓄積された厚い戦力で県新人に臨み、佐野恵子監督就任以来初の県4強、さらには7年ぶりの東海新人出場、そして11年ぶりの優勝も狙う。

中心となるのはチームの司令塔・そして「コート上の指揮官」として卓越した才能を見せる堀田明里。各チーム秀逸なガードを擁する熾烈な司令塔ポジション争いを繰り広げるレベルの高い静岡県の中でも私はナンバーワンガードとしてこの選手を非常に高く評価する。アジア競技大会の会場となる愛知県の新たなるバスケ聖地・IGアリーナ(愛知国際アリーナ)で開催されたNBA選手・八村塁主催のキャンプ「BLACK SAMURAI2025」で最難関277倍の倍率を突破しスペシャルマッチに出場し超満員の観客の中でプレー、私も動画で試合を見たが遠巻きからの映像でも一目で彼女の特徴的なプレーが見分けられた。今回の中部新人でも多種多彩な攻撃パターンを見せ得点につながるプレーを連発、トップ位置でボールを持つと手招きで仲間を誘導して生かしていくプレーを見ると司令塔の酸いも甘いも知り尽くした熟練さが伝わった。ハンドリングも巧みで時間をかけて攻める時もパーミング(ダブルドリブル)を取られないよう指先まで神経をとがらせ、シュートでは相手がなりふり構わず身体を浴びせてくれればワンフェイクやダブルクラッチを使い、シュートが外れれば身を挺して最短距離を計算して素早く相手コートに駆け付ける。すべてにツーランク上の選手、垣内(浜松開誠館)・岩田(市立沼津)とともに各地区を代表する大会屈指のアスリートである。キャプテンの佐野麻帆は何事も器用にこなす万能選手、勝負強さは超一流で正面からのドライブでペネトレイトすると見せかけてミドルラインで止まって見せるジャンパーで相手のディフェンスリズムを狂わす。佐野梨帆は巧みなボールミートとギャロップステップを見せる。野入ひなはミートから深くボールをアゴの下まで落としてから渾身の力を込めて打つツーハンドシュートが魅力。

下級生に目を移すと、藤枝順心戦で決勝のプレッシャーを全身に受けながらもスタメン出場し落ち着いて決めたフリースローが印象に残る名倉咲奈や華麗かつ堅実なプレーで観客を魅了、ダブルクラッチ・フェイトアウェイを難なくこなし、ここぞの場面で得点を決めるクラッチショーター・池田千穂などのメンバーで伝統の平面的なバスケットを生かしつつもブレイクやアウトサイドも多用する攻めと相手の追随を許さない首尾一貫したプレッシャーディフェンスでまずはブロック決勝で予想される宿敵・浜松学院興誠戦で何としてでも勝利を収め東海新人そして県制覇へとつなぎたい。

ウインター県予選で浜松開誠館を最後の最後まで苦しめ、「令和の名勝負」としてウインター史に語り継がれるだろう死闘を演じた浜松学院興誠は守山ひかり・太田綾夢という県協会優秀選手にも選ばれた大黒柱が抜けたことは相当な痛手だが、浜松開誠館戦で3P2本を含む21得点を挙げた袴田千愛が新チームを支えていく。昨年は三大大会すべて要所で常葉大常葉と対戦、全

試合壮絶な戦いとなりながらも3連勝、県新人5位・県総体4位・ウインター予選3位、右肩上がりで順位を上げた今、2年ぶりの東海新人出場は単なる通過点に過ぎない。「ディフェンスから流れを作る」ことを軸に守備で主導権を握り全員でボールプレッシャーをかけてボールを奪いブレイクにつなげるという逆説的な発想を徹底、そのために状況判断のスピードやスペーシングを普段の練習から意識していると聞く。パターンプラクティスを徹底しながらもマニュアルが形骸化しないよう想定外の状況やその先の一手まで考えながらバスケに取り組む姿勢が窪田智弘監督の指示や選手たちの動きを見ていると強く伝わる。最後の最後は個々の能力かもしれないがそれに頼りすぎず全員でカバーし、短絡的な気持ちにならず40分のスパンで試合を考える意識が徹底されている。今季は突出した大型選手はいないが、平均的に高さを持つメンバーが揃う。

袴田はウインター予選・常葉大常葉戦で守山・太田に厳しいマークが続くなか3P2本を含む15得点、続く浜松開誠館戦ではその先輩たちを凌ぐ21得点を挙げた。鋭いドライブと170cmの長身を生かしたリバウンドで心身ともに「チームの心臓」としてさらなる飛躍を期待する。本間輝星は名前の如くスピードで輝くシャイニングスター、絶対的な自信を持つドライブに加えリバウンドや3Pでも得点に参加、西部新人・浜松市立戦ではウインター予選ベスト8・浜松商業を倒して波に乗る相手の戦意を削る26得点、オフェンシブな突進と身体を張ったディフェンスを見せた。新チームでレギュラーを獲得した榎原碧は最後まで手に汗握る展開となった浜松開誠館戦に指揮官の大いなる期待を胸に途中出場、県武道館のメインコートを踏むというかけがえのない経験を西部新人でも得意のリバウンドを武器に生かしていった。チーム最高身長172cmワネケジナディア羽樹は今大会が本格的なデビュー戦、2学年上の偉大な姉の背中を見ながら練習に精進、高さを生かした迫力満点のゴール下で得点を重ね、県大会での初プレーを注目したい選手である。チームを統率するキャプテン・杉浦心音は先達が代々伝えている攻守に安定したガードしての役割を十分理解してゲームに臨み、得意のジャンプシュートとプレッシャーディフェンスでチームに貢献する。

県選抜として東海国スポにも出場した1年生・森本幸加は3Pだけでなく西部新人では要所で絶妙なアシストを連発、ゲームを体全体で感じながら適切な状況判断が出来ることを実証した。武器であるオフェンス力に比例してディフェンスの強度を上げ、相手をロースコアに抑えながら自軍は妥協なき攻めを続けるバスケットで4大会連続の対戦が予想される常葉大常葉戦で相手のリベンジの芽を摘み、東海新人出場そして一気に10年ぶりの優勝も目指す。

中部4位・静岡大成は中部新人準々決勝で昨年県新人4位の東海大静岡翔洋を大差で破り、準決勝でもウインター予選3位の藤枝順心相手に前半で10点差をつけて折り返す好スタート、最後は力尽き延長の末1点差で惜敗した。静岡商業との3位決定戦では最後の最後まで一進一退の攻防が続き最終的に4位、それでも平成16年に静岡精華から現校名に快勝して以来最高順位で初の県ベスト8を目指す。攻撃の核となる黒田琴葉・塩坂彩葉・望月葵を筆頭に個々の能力が優れていますからでも3Pが打てて、守備では栗田恋羽を中心に状況に応じゾーンプレスやオールコートプレスも躊躇なく使う。攻めにも守りにも妥協のないバスケに今後の躍進を感じさせる。

浜松商業はウインター予選で第2シード・東海大静岡翔洋を延長の末破る番狂わせを演じてベスト8、今回西部新人準々決勝で浜松市立に惜敗したものの続く2試合に連勝し5位で県大会に臨む。鍛錬された高い守備力でロースコアゲームに持ち込んで勝つのが王道、チーム全体が精度の高い3P能力を持ち得点を重ねるが、外に固執することなく3Pかドライブかを冷静かつ適切に選択できるのが強み。エース・玉川冴はスタートダッシュと爆発的な得点力が持ち味、西部新人・

浜松東戦では22得点、浜松市立戦では3P3本を含む15得点を決めた。増尾瑠花はガードポジションからパスを供給するだけでなくサイズがなくてもインサイドからのアシストパスで存在感を放つ。この二人を主軸にして初戦を確実にものにし、常葉大常葉との2回戦でもジャイアントキリングを成し遂げたい。

東部10位で県新人出場を決めた富士東は実に23年ぶりの出場となる。近年急激なクラス減で部員不足に悩まされ、令和4年のウインターには富士見との合同チームで出場、令和5年からは再度単独チームを編成し2年を経て見事県新人出場を果たした。合同チーム経験校が再度単独チーム編成となり県切符を掴んだのは今回が初となる。杉山由紀監督が手塩にかけて育成し苦楽を分かち合った成果がここに見事結実したと言える。「走るバスケ」を目指して地道に活動、ウインター予選で小笠に2点差で逆転負けした苦い経験でチームが奮起、接戦を経験したことが東部新人での躍進につながった。しなやかシュートが持ち味、高校入学後にアウトサイドからインサイドにコンバートされるもすぐにアジャスト、ジャンプシュートやドライブからの得点でチームを引っ張る頼れるキャプテン・野村結花を中心に、チーム随一の負けん気の強さを武器に1on1のディフェンスで常にボールカットを狙う渡邊華帆、そして151cmの小柄ではあるが粘り強い守りとドライブ、3Pでチャンスを引き寄せる望月美帆などの戦力で中部王者に挑む。

その他の注目選手として、三田優里愛・大戸弥月(常葉大常葉)、高橋香音・桑原樹梨・木村璃良・大坂優来・日吉怜來(加藤学園)、鈴木寧音・佐田優花・萩原咲菜・嶺遙菜・佐々木花・鈴木果歩・山中史芽(三島南)、白幡想・片岡侑希・藁科芭乃・北川ひより・長谷咲(島田商業)、森下恋・荒川結月・大竹琉菜・曾我部一花・小河路希美・大竹琉菜(浜松商業)、山崎瑠夏・溝口冬姫・中嶋実保花(富士東)、水崎こころ・望月莉杏・稻森光華(静岡大成)、山本彩心・向坂翼(浜松興誠)などを挙げたい。

右下のブロックは、東部王者・市立沼津と中部新人準優勝・藤枝順心のウインター予選準決勝の再戦がブロック決勝で実現する公算が高いが、西部新人3位の浜松市立、前回大会7位の静岡東、昨年県新人4位・県総体準優勝の東海大静岡翔洋など実力校が集まるまさに「実力伯仲・群雄割拠」、まさに真冬に戦う「1番熱いブロック」となるだろう。

ウインター県予選・準々決勝で直近3連敗を喫していた浜松南に鮮やかな逆転勝ち、続く準決勝でも藤枝順心に快勝し決勝でも9連覇中の女王に残り2分で4点差まで迫る白熱した戦いを見せて王者の牙城を搖るがせた市立沼津は東部新人決勝で同地区のライバル・沼津商業に勝利し大会12連覇を飾った。三大大会だけでなく東海リーグや国体・国スポでも活躍した野田志・米内心菜・上原美桜の県協会優秀選手は引退したが、県内随一の女子バスケ伝統校・市立沼津に脈々と受け継がれる遺伝子を引き継ぐ選手が多く残る。

その代表格は上記先輩と並び優秀選手に輝いた岩田真奈。巧みなシュートバリエーションを持ち勝負所での得点力も抜群、当然防御側が圧倒的不利となる1on1のディフェンスでも速いステップと相手の機先を制する脚の運びでボールを奪いにかかるテクニックは一見の価値がある。ウインター予選・県武道館決戦でも要所でチームに貢献、準決勝では3P3本を含む17得点、決勝でも3P3本を含む18得点とともに野田と並ぶチーム最多得点を奪った。特に決勝では相手が追加点でのダメ押しを狙い試合を決めに来た時にも、カウンターアタックで劇的なシュートを決めて粘りを見せた。東部新人・沼津商業戦でも3P2本を決めるとともに1on1を挑まれた時のディフェンスにも強く、今大会注目の3&D選手である。味方を生かすプレーを心掛けコートに

立つ増田瑛音は自ら積極的に走ってスペースを作り攻撃の選択肢を増やしていく。藤枝順心戦で見せた、迷わず一気呵成に決めた3Pの放物線が印象的である。県優秀選手カルテットの偉大なる先輩たちとともに県武道館でスタメン出場の栄誉を与えられた土橋莉空は東海国スポにも出場し飛躍的な成長を遂げた期待の大器、来年のこの大会では「今大会最大の注目選手」と絶賛されている可能性があるポテンシャル豊かな次世代のスーパースター候補である。とにかくこの選手は献身的なプレーに徹し、コートを縦横無尽に走って勝機を見出すことに一日の長がある。ディフェンスでは寄りを強く意識し相手が嫌がる程のプレッシャーをかけるプレーが目に付き、自己犠牲もいとわずコートでボールをつなぐことにこだわる姿勢は好感が持てる。そんな中でも県武道館決戦で強豪相手に決めた計18得点という数字は何よりの励みと自信になっていくに違いない。

新チームの最高身長170cm・岩川恵里佳は実践を積んで伸びるタイプ、流れを引き寄せるリバウンドで勝利をもたらす。野崎芽依は沼津商業戦で大活躍、チーム最多の21得点を挙げ勝利の女神となった。特に決勝独特の雰囲気の中でフリースロー7本を決めるとは並大抵ではない。セカンドチャンスを生み出すリバウンドでチームの士気も上げ勝利に貢献する。塩川環菜は金子(浜松南)とともに早生まれの上級生として東海国スポにも出場し経験値を上げ、浜松開誠館戦でも当たり負けしないドライブとシュートを見せた。伝統の粘り強いディフェンスで相手にタフショットを打たせ、絶好の位置でリバウンドを支配しブレイクを仕掛け、ハーフコートではパスランを中心に攻撃のリズムを構築し、虎視眈々とリングを捉えながら多彩なオフェンスで得点を奪うバスケットでブロック決勝での対戦が予想される藤枝順心を返り討ちし3年連続の東海新人出場はもちろん、常勝王者を倒して17年ぶりの優勝も目指す。

県総体7位・ウインター県予選3位と大会の順位を上げ続ける藤枝順心は中部新人準決勝で静岡大成のロケットスタートに付いていけず大苦戦、しかしながら最後に同点に追いつきオーバータイムを1点差で制し決勝へ、常葉大常葉戦では前日2試合の接戦が選手のスタミナや脚力に影響した印象を受けたが、大月耶奈実・宮住美桃という大黒柱は抜けてもキャリアを積んだ下級生が残り、今回まずは3年ぶり3度目の東海新人出場を狙う。このチームの強さは指導者・選手全員が常に冷静沈着で「試合終了の時点で相手より1点以上多く得点していればいい」という肝が据わった考えを共有していること。ウインター予選でも準々決勝で県総体準優勝の東海大静岡翔洋を破り勢いに乗る浜松商業を落ち着いて軍門に下し、今回の静岡大成戦でも誰もが欲しがる目先の1点だけにこだわらず40分間という全体の中でどういう組み立てをしていくかが共通理解されているように感じた。

献身的なプレーで攻守の中核を担う石田妃菜野はシュートを打つ相手に身体を寄せてミスを誘発させるディフェンスマスター、攻撃ではハイポストでボールを受けて1on1の勝負に絶対の自信を持ち、状況に応じてオポジットにスキップパスを出し、裏から回ってスクリナーをカールカットしターゲットハンドにボールを落とさせシュートを決める美技も見せる。小池果寿は果敢に放つディープスリーが魅力、守備では仲間のミスを積極的にフォローする精神も忘れない。昨年U15県協会優秀選手・東海国スポに出場してさらにキャリアを積んだ松村晏奈は中部新人で著しい成長を見せた。競りに競った静岡東戦・静岡大成戦ともに最終得点を記録しチームの躍進に貢献、巧みにロッカーモーションを使ったドリブルスキルで得点を量産、角度のない位置から鋭角に決まる3Pも魅力である。

その他にも、ウインター予選・市立沼津戦でも171cmの長身を生かしたゴール下のパワープレーで7得点、中部新人ではそのプレーに精度がプラスされた岩崎珠絹、スティールを武器とする窪野琴乃、鋭いドライブやパワードリブルを入れてのフックシュートも見せる井上夏海など、

1,2年生を有機的に機能させたバスケットを見せる。サイズがない面を攻撃ではアウトサイドでカバー、守備では早いローテーションや相手の攻撃を予見したポジショニングで対抗する。東海新人出場のためにもブロック決勝での実現が濃厚である市立沼津に雪辱を果たさなければならない。

準々決勝でウインター県予選・ベスト8の浜松商業を破り、さらに3位決定戦で第4Q3P5本を決めて浜松聖星に競り勝ち西部新人3位となった浜松市立はこの大会平成29年度から令和4年度まで連続して県ベスト8以上、特に令和2年度には3位に輝いた経験もある。チーム全体が相手のディフェンスの出方に合わせて対応でき、常に冷静に判断し安定したプレーを選択する。個々が高いシュート能力で3Pを打つが、そこを警戒されても次の選択肢を残すような合わせの動きも忘れない緻密なバスケットが特徴、もちろん浜松商業戦で10本決めた3Pが示す外からの高い得点力も相手にとっては恐怖の的である。

ゴール下で体を張ってリバウンドを取る献身的なプレーが魅力、抜群のキャプテンシーでチームを統率する菊岡南那を中心に、浜松商業戦で3P3本を含む15得点で勝利を手繕り寄せたシューター・小久保有紗、豊富なキャリアを武器に一線へのプレッシャーで相手の出鼻をくじく内山留瑠、共に昨年度U15県協会優秀選手を受賞した双子姉妹・チーム随一の点取り屋として中でも外でも得点を生み出せる袴田蒼と浜松聖星戦の第4Q・3P3本を含む連続11得点を決めた袴田茜、ファウルされて体勢を崩してもゴールから目を離さず打ち切ってバスケットカウントをもぎ取る果敢なインサイド・藤井ひより、そして共に途中出場した浜松興誠戦で3P3本、浜松聖星戦でも3P2本を含む16得点を挙げ、ディフェンスの動きに合わせてシュートチャンスをクリエイトする能力が高い関根美緒など高さがない分、前線から激しいプレスをかけてボールを奪い速攻からアウトナンバーを創り出しカットインで得点を奪うバスケットが魅力、外からのスリーがさらに冴えれば十分に上位進出の可能性はある。

シード校にとってこのブロックに中部8位のノーシードで東海大静岡翔洋がいるのも不気味な存在に感じるに違いない。これだけの強豪校にダークホースという言葉を使うのは大変失礼だが、終わってみれば香陵アリーナのコートでプレーしている可能性もある。言わずもがな、昨年のこの大会で浜松開誠館の連勝を165で止める「御殿場の奇跡」を起こすも最終戦を落とし4位、その雪辱に燃え県総体は見事準優勝・2年連続の東海総体出場を果たした。3年間心技体でチームを支えた稻葉叶・星合汐凪・山内楓などの上級生が抜けたことは我々の想像以上に大きいが、指揮官が考える多岐に渡る戦術を自軍の特徴や調子・スキルさらに戦況や相手チームに応じて柔軟に対応しながら「低く、強く、速く」実践し試合の流れを引き寄せディフェンスでも厳しいプレッシャーを持続するバスケットが特徴、森陽奈子・多々良心優・田名部桃凪・河合咲音・鈴木彩羅・山本菜奈子・原田由羽・山内葵・繁田春亜など先輩たちに鍛え抜かれた面々で県新人までにチームをリビルドして本番に臨む。

東部9位の伊豆中央も9年ぶりの県新人出場となる。すでに昨年の県総体にも8年ぶりに出場し、その時の主力が残り今回の出場もまさに順当、何ら驚きはない。東部新人では3位の沼津中央に敗れただけで5勝を挙げた。リバウンドやルーズボールの意識を強く持ち粘り強く頑張れるのが特徴、ディフェンスでは足を使ってハードワークを意識して相手が嫌がることを徹底する意識を持ち、オフェンスではウイングの1on1やペイントエリアの1on1を皮切り攻めるバスケットを展開する。司令塔を担い状況に応じて攻撃を組み立てて自ら得点も稼ぎ得点パターンの王道を作り出せる小塚愛莉を中心に、内外ともに器用にこなしミドルシュートの精度も高く安定して得

点ができる前田夕澄、新チームになって覚醒した大器晩成型の田村実奈美、得点嗅覚が高く大一番で力を発揮する天野葉菜乃などの戦力で県新人初勝利を目指す。

その他の注目選手として、高橋和花・増田向日葵・川口瑠楓・藤野結津葵・近藤莉愛・神谷紗名・岡部美空(浜松東)、錦戸あいら・本間詩季・今井和花・三次咲妃・長谷川桃寧・朝日都・高木心桜(掛川東)、伊藤葵・池田雛希・渡邊夏帆・井邑心優・杉山奈南・澤口空・長谷川凜・杉山暖那・土屋惺愛(静岡東)、飯田琉永・清水希・竹ノ内杏優(市立沼津)、山田空奈・遠藤ひまわり(伊豆中央)、松村典奈・望月柑那・大原紗夏(藤枝順心)、高橋優芽・上田遙花・神原果音(浜松市立)などを挙げたい。